



株式会社産業革新投資機構 記者会見

2021年度の事業活動と今後の方針について

2022年7月8日（金） 15:00～16:00

【出席者】 株式会社産業革新投資機構

代表取締役社長CEO

横尾 敬介

取締役CIO

久村 俊幸

1. 2021年度の事業活動	・ ・ ・ ・ ・	P. 3
2. 今後の方針	・ ・ ・ ・ ・	P. 5
3. JICの投資活動	・ ・ ・ ・ ・	P. 7
(1) JICによるファンド投資の方針	・ ・ ・ ・ ・	P. 8
(2) JICによるファンド投資の状況	・ ・ ・ ・ ・	P.1 8
(3) VGI・JICCの状況	・ ・ ・ ・ ・	P.2 1
参考資料（会社概要等）	・ ・ ・ ・ ・	P.2 4

1. 2021年度の事業活動

- 2020年度までの体制立ち上げ期を経て、**2021年度は投資活動を本格化**。
- **投資実績を着実に積み上げ、必要な組織・体制の増強、エコシステムの醸成**に向けた活動を進めてきた。

1 投資活動の本格化

1. 民間ファンドへのLP出資

2021年度は、投資決定件数：8件（累計12件）、出資約束額：約661億円（累計約806億円）を実施

2. JIC Venture Growth Investments (JIC VGI) による投資

2021年度は、投資件数：19件（累計36件）、投資額：約339億円（累計約508億円）を実施

3. JIC Capital (JICC) による投資

2021年度に投資決定に至った案件はないが、会社設立以来、約180件の投資検討を実施

2 組織・体制の増強

1. JICグループ全体として、29名（出向者12名を含む）の新たな人材を採用。総従業員数は123名
2. 調査機能・ナレッジマネジメントを担う体制として、新たに「調査室」を設置
3. 「原則テレワーク」方針の下、多様な働き方やBCPも見据えた業務環境・体制を構築

3 エコシステムの醸成に向けた活動

1. 5件の機関連携協定を締結。地方銀行や政府系機関からの出向者受け入れ、情報連携などを実施
2. 国際的なカンファレンスへの参加や、アカデミアにおける講演、寄稿などの情報発信を実施

2. 今後の方針

- 経営理念に掲げる「活動の柱」を土台に、**日本の産業競争力強化の観点から重要な政策領域**※に対し、**投資活動を通じて貢献**していく。

※スタートアップ支援・オープンイノベーション推進、2050年カーボンニュートラルに向けたGX（グリーン・トランスフォーメーション）推進、DX（デジタル・トランスフォーメーション）推進、科学技術・イノベーションの推進など。

JICのスタートアップ支援方針

- **政府**において、**スタートアップ支援強化**の方針が打ち出される中、**JIC**としても、Society5.0の実現や、ユニコーンの創出に向け、民間投資資金の不足分野に、**リスクマネー**を供給し、**VC**をはじめ、我が国の**スタートアップ・エコシステムの成長・発展**に貢献していく。
- ①研究開発から社会実装までに長い期間と大規模な資金を要する**ディープテック**
②有望なスタートアップの数を増やし、裾野を広げる上で重要な**プレシード・シード**
③事業成長に資金を要する**グロース**や、**スタートアップのグローバル市場進出**、などの分野を重点的に支援していく。

JICの活動の柱

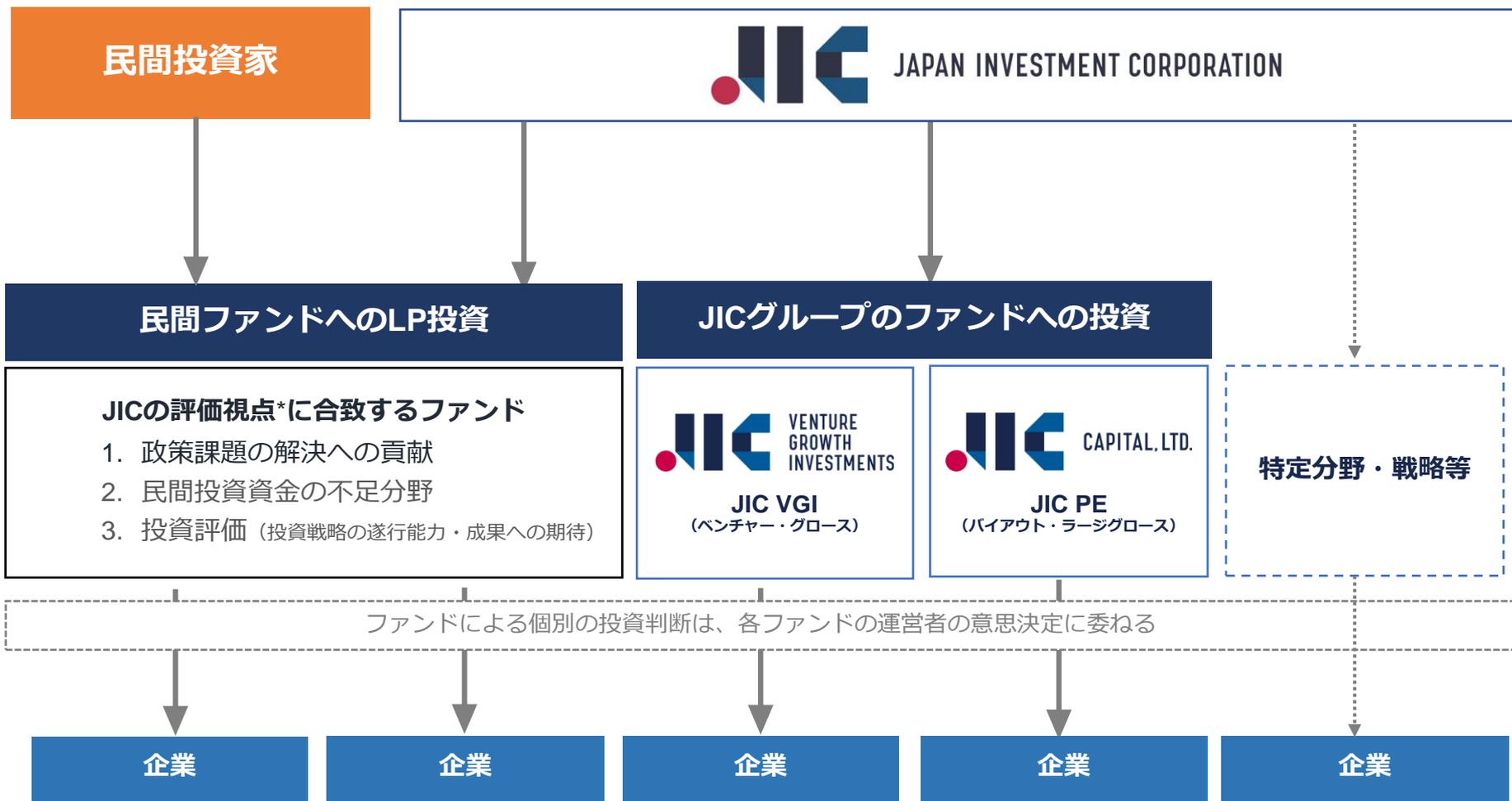
(1) オープンイノベーションによる企業の成長と競争力強化に向けた**リスクマネー**の供給

(2) 我が国の**リスクマネー**の好循環創出に向けた**基盤づくり**

3. JICの投資活動

(1) JICによるファンド投資の方針

- 経営理念に基づき、民業補完の原則の下、ファンドへの投資を通じ、オープンイノベーションによる企業の成長と競争力の強化に向けたリスクマネーを供給する。



*上記視点に加えて、募集状況、ファンド（運用者）の成長段階、JICの役割・ポートフォリオ等の観点を総合的に勘案する。

(1) リスクマネー供給と「呼び水」効果の発揮

日本の産業競争力の強化の観点から重要だが、**民間の投資資金が不足している分野・投資戦略**（投資手法、対象セクター、ステージ、対象地域等）に対する**リスクマネーの供給**を行い、**短期・中長期の民間の投資資金に対する「呼び水」効果**を発揮する。

(2) ファンド運用者の成長支援、エコシステムの醸成

①投資戦略

日本市場では**先例が少ない投資戦略等を掲げるファンドに対しても投資**を行うことにより、日本市場における**多様な投資戦略の発展やファンド運用者の成長**を支援。

②投資チーム

ファンド運用者の経験値、トラックレコード形成の支援に加え、LP投資家に対するアカウンタビリティの向上等を支援することで、**将来的に機関投資家（年金・海外投資家等）からの資金を受託できるファンド運用者へと成長**できるよう支援。

③投資人材

JVCA等の業界団体、機関投資家、投資先ファンドの運用者の協力を得ながら、**ファンド運用のベストプラクティスの研究・導入、投資人材の育成**を支援。

① Society5.0に向けた投資

AI、IoT、ロボットといった第四次産業革命に関する技術の社会実装の他、バイオ・創薬・ヘルスケア、モビリティ、宇宙、素材、電子デバイス等の国際競争力を持ちうる事業分野に対する、長期かつ大規模なリスクマネーを供給する。

ディープテック

- ✓ ①デジタル技術も活用した、フィジカル技術ベースの非連続なイノベーションに基づき、②社会課題の解決に大きなインパクトをもたらす可能性を有する技術で、③その研究開発段階から上市までに長い期間と相当程度の資金を要するディープテックの研究開発・社会実装を支援する。



ライフサイエンス・バイオテック

- ✓ スタートアップと製薬会社とのオープンイノベーションによる革新的新薬の開発をはじめ、医薬品、医療機器、ヘルステック、バイオテクノロジーなど、ライフサイエンス分野のイノベーションを支援する。



カーボンニュートラル・クライメートテック

- ✓ クライメートテック領域の革新的イノベーションや新たなビジネスの創出を支援し、地球温暖化対策を経済成長に繋げるとともに、世界の脱炭素化に貢献する。



オープンイノベーション

- ✓ 米国、東南アジア、インド、イスラエル等の先進的な技術等を有するスタートアップと日本企業との事業提携等によるオープンイノベーションを促進し、革新的なビジネスの創出を支援する。



②ユニコーン創出に向けた投資

- グローバルな経済圏において競争力をもって持続的に成長することを目指す**ユニコーンの創出**に対する長期かつ大規模なリスクマネーを供給する。

プレシード/シード

- ✓ 将来的にユニコーンに成長する可能性がある有望なスタートアップの数を増やしていくため、プレシード/シードステージのスタートアップを支援し、日本のスタートアップ・エコシステムを下支えする。



グロース

- ✓ 日本市場において、民間の投資資金が不足している、グロースステージにあるスタートアップが、ユニコーンを目指し、事業を十分に成長させるための大規模なリスクマネーを供給する。



ゴー・グローバル

- ✓ ユニコーンや、それを超える巨額の企業価値を有するスタートアップへの成長を志向する多くのスタートアップにとって重要となる、グローバル市場への進出を支援する(海外拠点を持つVCの支援やグローバルに活動するVCの呼び込み)。



ダイレクト・セカンダリー/ Continuation Fund

- ✓ ユニコーンを目指すスタートアップが、出資を受けたファンドの存続期限により、十分な成長を制約されることのないよう、日本市場におけるセカンダリー市場の発展を支援する。



③地方発イノベーションのための投資

- 事業化により高い収益を期待できる技術を有するにもかかわらず、事業としての成長の機会を十分に与えられていない、**地方の大学発ベンチャー**等の資金需要に対応するためのリスクマネーを供給する。

産学連携

- ✓ 日本市場では、多くのVCが東京を中心に投資活動を行っていることから、民間の投資資金が投下されにくい、地方大学等にある優れた技術の事業化を目指す研究開発型スタートアップ等を支援し、日本各地のスタートアップ・エコシステムの醸成を支援する。

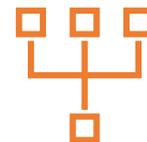


④産業再編に向けた投資

- 産業構造、国際的な競争条件の急激な変化に対応するため、日本が国際競争力を持ちうる事業分野における、既存企業による**産業や組織の枠を超えた大胆な事業再編**を促すためのリスクマネーを供給する。

カーブアウト・ ロールアップ

- ✓ 日本市場において、民間の投資資金が不足している、製造業等を対象としたカーブアウト・ロールアップ戦略をはじめ、国際競争力を持ちうる事業分野における、**産業や組織の枠を超えた大胆な事業再編**を支援する。

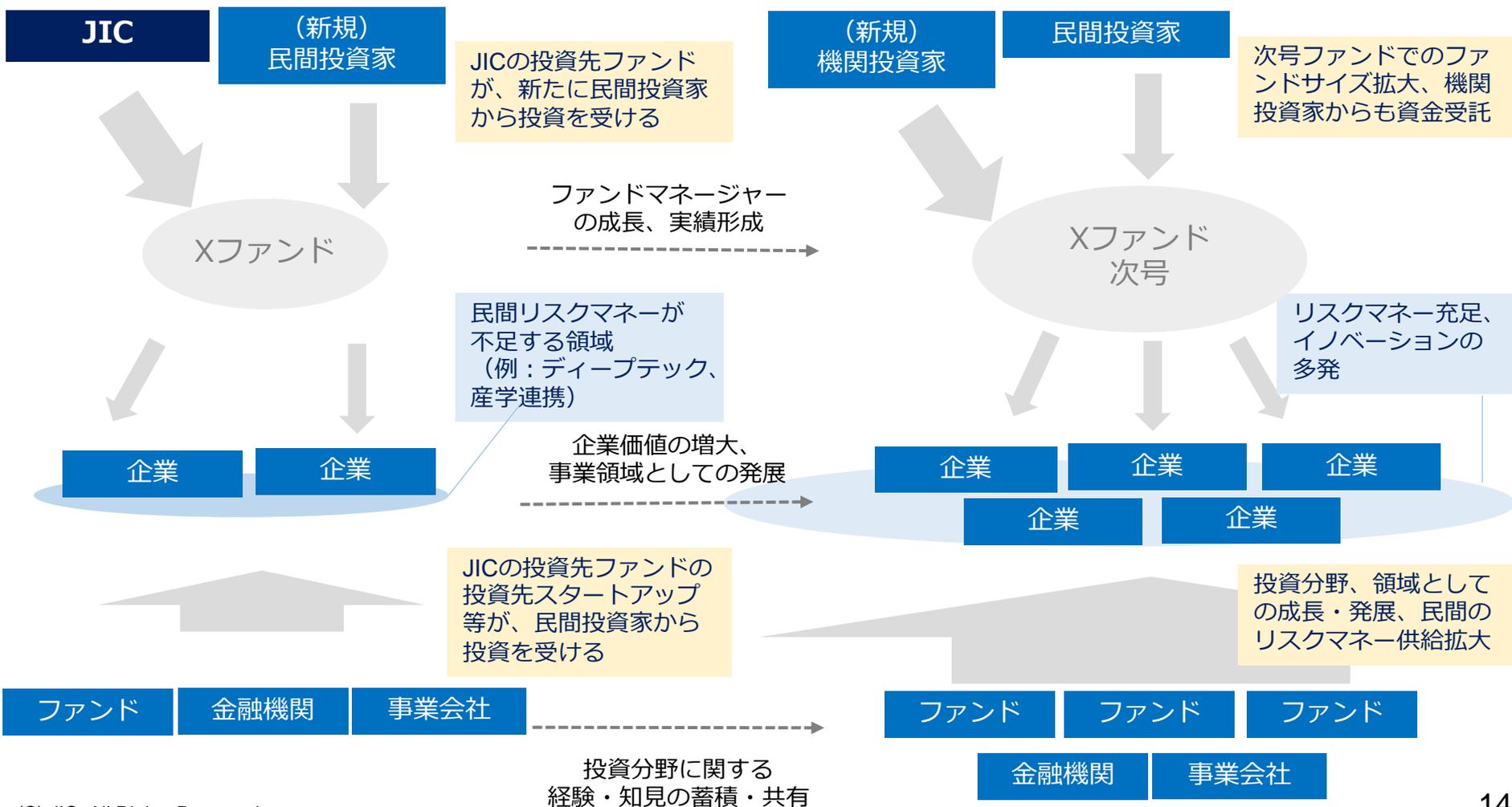


ファンド投資の「呼び水」効果

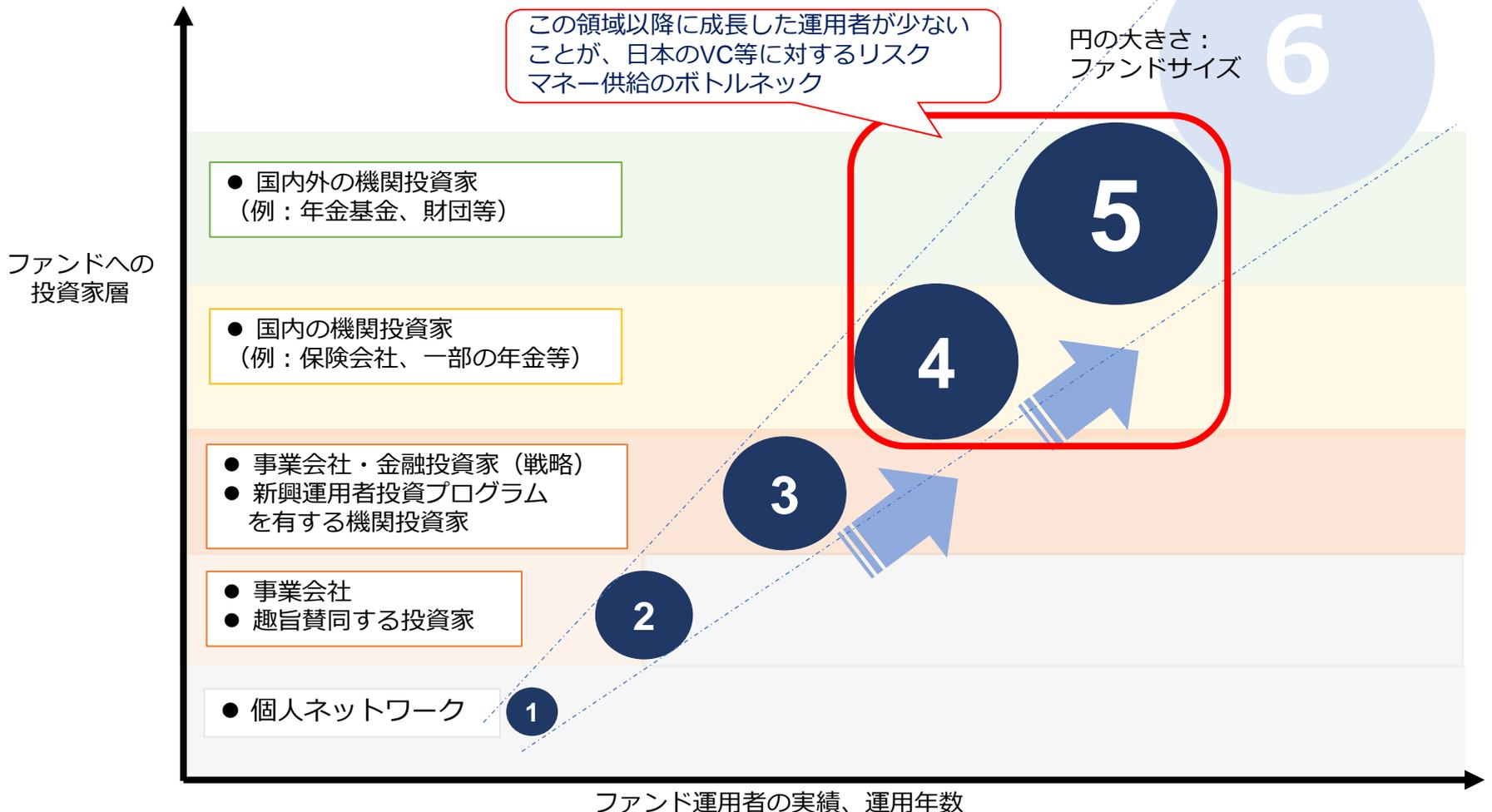
- 民間の投資資金への「呼び水」効果は、短期では、①JICの投資先ファンド、②JICの投資先ファンドが投資する企業（スタートアップ等）への民間資金の流入が加速する姿を企図。中長期では、リスクマネーの好循環を支えるエコシステムが發展し、自立的に機能する姿を目指す。

短期的な効果

中・長期的な効果



- 日本のファンド（特にVC）は、欧米に比べて、**年金等の機関投資家からの資金受託が少なく**、中長期的な成長を支えるリスクマネーの確保の観点から大きな課題。
- リスクマネーを仲介する役割を担う、日本のファンド運用者が、**国内外の機関投資家から資金受託できるよう、成長を支援**。



課題

国内外の機関投資家の資金受託者（ファンド運用者）に対する期待

<トラックレコード>

- ・ グローバルTop1/4に比する良好なトラックレコード
- ・ ネットベースで評価可能な一定の運用期間が経過したファンド実績
- ・ ファンドの強みを示す象徴的な案件への投資実績 等

<ガバナンス>

- ・ 組織化されたファンド運営体制
- ・ 世代交代と安定した組織運営
- ・ 機関投資家が求める内部管理
- ・ 海外機関投資家に対応できるIR
（DD対応、レポーティング、組合員集会運営等）
- ・ 適切な利益相反管理、諮問委員会運営
- ・ グローバルスタンダードに則った組合契約 等

JICによる 投資・支援

- ・ 機関投資家の視点でのファンド運営全般（ファンド戦略、運用体制等）に対する助言
 - ✓ 戦略・実績等に応じたファンドサイズと体制整備
 - ✓ 組織・業務プロセスの整備
 - ✓ DD・レポーティング等の体制整備
 - ✓ ファンド組合契約の主要条件の整備
- ・ 各種ネットワークへの仲介や情報提供等
 - ✓ 機関投資家
 - ✓ JICグループのファンド、投資先ファンド等
 - ✓ 政府、公的機関（規制・制度、公的支援措置等に関する情報収集等）

目指す成果

ファンド運用者の成長・市場全体でのユニバースの充実

- ・ 次号ファンドでのファンドサイズの拡大、機関投資家からのLP投資の拡大
- ・ 機関投資家の投資対象となり得る、投資チームの増加

- 国内外の市場環境、政策動向等に関する調査・分析を行い、国内外の機関投資家等に対する情報発信を行うとともに、新たな分野・戦略を含む、JICの投資方針の具体化、高度化を進める。

1. 国内外の投資資金の日本市場への呼び込み

(国内外の機関投資家、グローバルVC、SWF等を念頭に置いた情報発信)

- 日本のスタートアップ市場等に関する情報について、海外の機関投資家やファンドマネジャーからのアクセスが容易になるよう、関係機関等と連携し、JICとしての定期的なレポートの配信も含め、情報発信に取り組む。

2. 新たな投資テーマの調査・分析、投資戦略の策定

- 例えば、WEB3.0などの新たなテクノロジーに関する投資動向や海外のClimate Techやカーボンニュートラル関係のインフラ投資に関する動向など、中長期的な産業構造の変化や投資機会も念頭においた情報収集や分析等を行い、JICの新たな投資テーマの調査・分析、投資戦略の策定に取り組む。

(2) JICによるファンド投資の状況

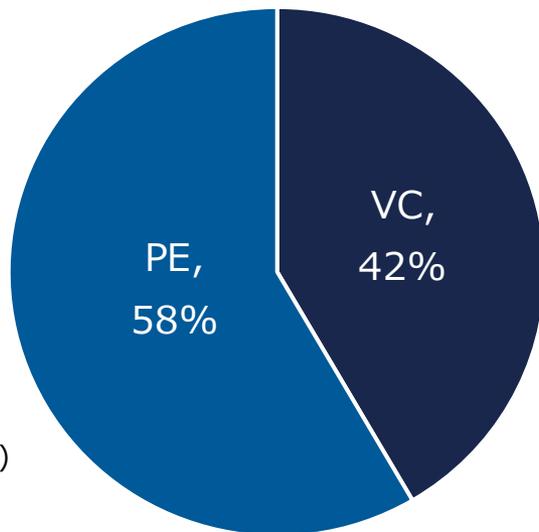
【ファンド投資の概況】

(2022年3月末時点)

	投資決定件数	出資約束額	払込済金額	進捗率
合計	14	4,006億円	902億円	22.5%
(うちVC関係)	11	1,666億円	777億円	46.6%
うちJIC子会社がGPとして運営するファンド	2	3,200億円	624億円	19.5%
(うちVC関係)	1	1,200億円	600億円	50.0%
うち民間GPが運営するファンド	12	806億円	277億円	34.4%
(うちVC関係)	10	466億円	177億円	37.9%

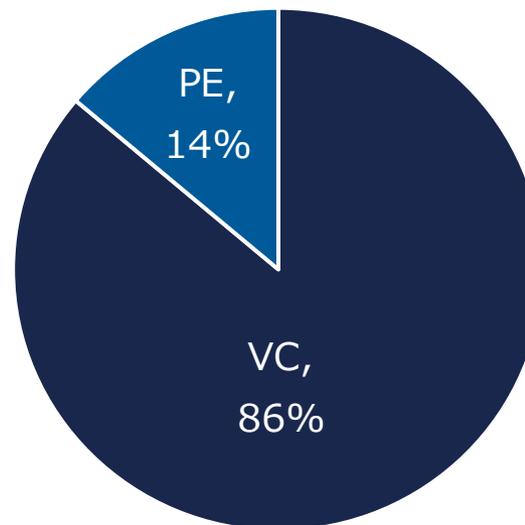
(注) 払込済金額には追加出資手数料等を含む

出資約束額



(2022年3月末時点)

払込済金額



(2022年3月末時点)

JICの投資先ファンドによる投資の状況



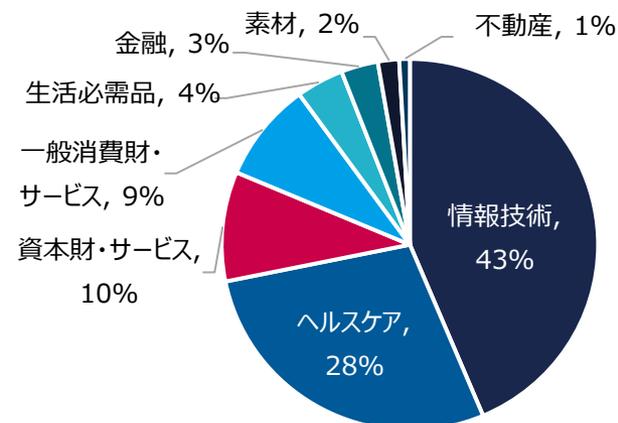
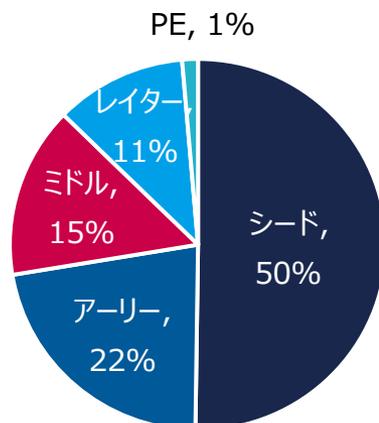
株式会社産業革新投資機構

(2021年12月末時点)	投資件数	投資額
全投資先ファンド	221	595億円
うちJIC VGF1	30	424億円
うち民間ファンド	191	171億円

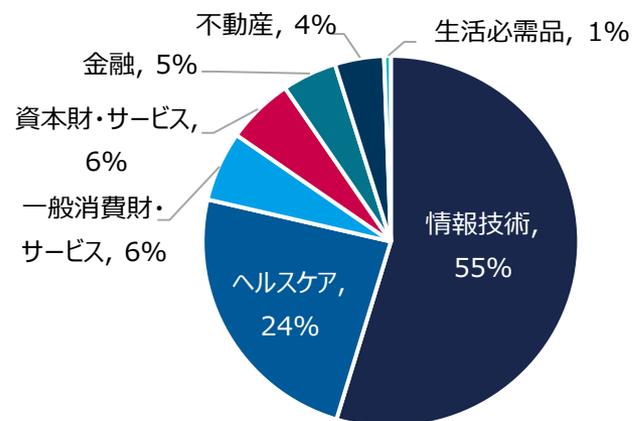
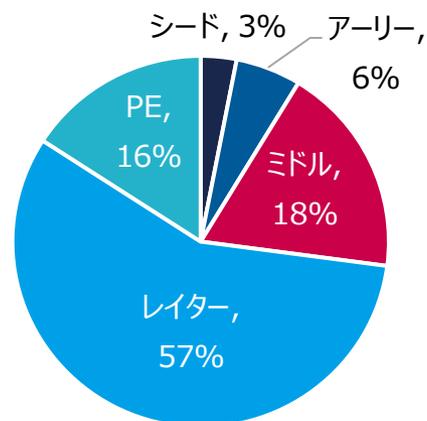
ステージ別

業種別

投資件数
(2021年12月末時点)



投資額
(2021年12月末時点)



(3) VGI・JICCの状況

JIC Venture Growth Investments



運用会社：JICベンチャー・グロース・インベストメンツ（株）
運用ファンド：JICベンチャー・グロース・ファンド1号
ファンド総額：1,200億円

- 2021年度は、以下の投資活動を実施。
 - －投資件数：19件（累計36件）
 - －投資額（追加投資額を含む）
：約339億円（累計約508億円）
- また、6名（出向者2名を含む）の人材を採用し、総従業員数は26名。

※いずれも、数値は2022年3月末日時点。

JIC Private Equity



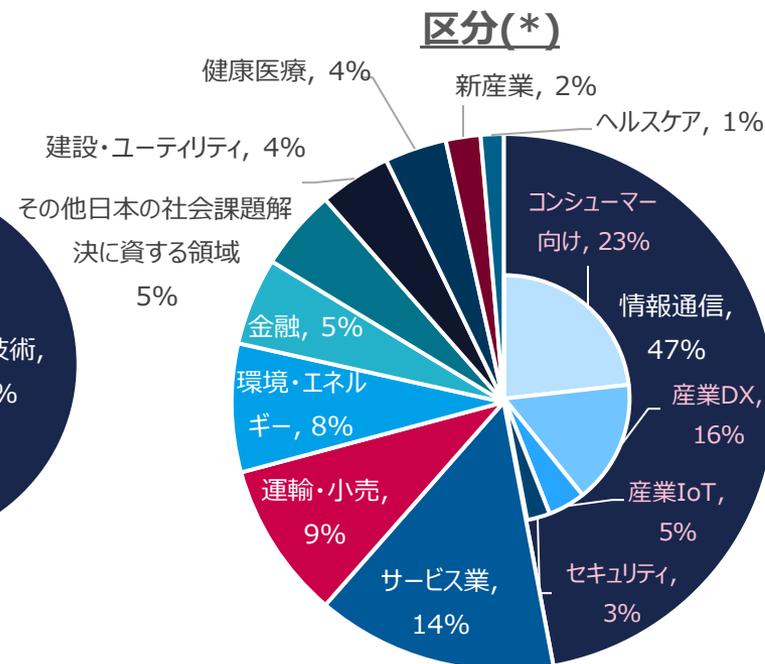
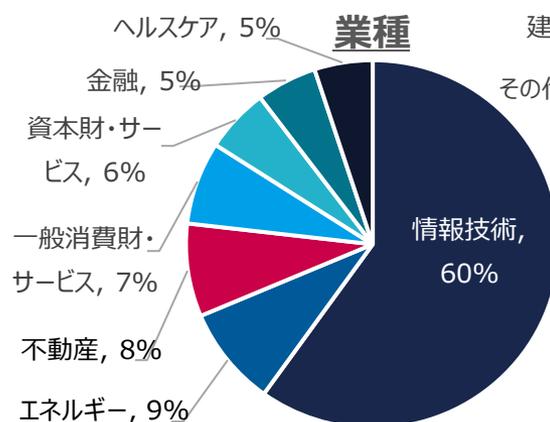
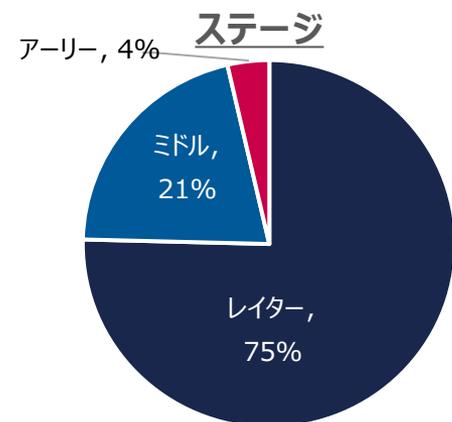
運用会社：JICキャピタル（株）
運用ファンド：JIC PEファンド1号
ファンド総額：2,000億円
(別途JICとの共同投資ファンド：2,000億円)

- 2021年度は、投資決定に至った案件はないが、会社設立以来、約180件の投資検討を実施。
- また、4名の人材を採用し、総従業員数は25名。

※いずれも、数値は2022年3月末日時点。

- JICベンチャー・グロース・ファンド1号 (VGF1) においては、会社設立以来、**合計36件、約508億円の投資を実行**。 ※数値は2022年3月末日時点。

< 分散の状況 >



(注)分散の状況は各投資案件のNAVをベースに作成

(*) 投資先企業が主に活動している産業区分 (投資により変革インパクトを生じる主な産業)

参考資料 (会社概要等)

JIC

- 株式会社 産業革新投資機構（JIC : Japan Investment Corporation）は、2018年9月、産業競争力強化法に基づき、オープンイノベーションを通じた産業競争力の強化と民間投資の拡大という政策目的の実現に寄与するべく、発足した投資会社です。
- JICは、傘下のファンドや民間ファンドへの投資を通じて、政策的に意義のある事業分野へのリスクマネーを供給します。

JICグループ



株式会社INCJ（設立:2018年9月）

既存の官民ファンドである株式会社産業革新機構から新設分割する形で発足。産業や組織の壁を越えて、オープンイノベーションにより次世代の国富を担う産業を育成・創出することを目的とした投資活動を行う。



JICベンチャー・グロース・インベストメント株式会社（設立:2020年7月）

ベンチャー・グロース投資活動により我が国のイノベーションを促進し国際競争力の向上に寄与。産業及び社会課題の解決を目指す。



JIC キャピタル株式会社（設立:2020年9月）

Society5.0実現に向けた新産業の創造、国際競争力強化に向けた事業再編の促進、デジタルトランスフォーメーション（DX）促進をはじめとした次世代社会基盤の構築に向けたリスクマネー供給を担う。

社名	株式会社産業革新投資機構 (Japan Investment Corporation : JIC)
設立	2018年9月
資本金 (資本準備金含む)	3,804億9,996万7,724円 (2021年1月現在) (うち政府出資3,669億9,996万7,724円、企業出資135億円 (25社))
所在地	東京都港区虎ノ門1-3-1
根拠法	産業競争力強化法 (平成25年法律第98号)
取締役	代表取締役社長CEO 横尾 敬介 取締役CIO 久村 俊幸 取締役CSO 諸永 裕一 取締役CFO 大内 聡 社外取締役 榊原 定征 (取締役会議長) 社外取締役 岡 俊子 社外取締役 小笠原 範之 社外取締役 忽那 憲治 社外取締役 幸田 博人
監査役	監査役 江戸川 泰路 監査役 末岡 晶子
産業革新投資委員会	榊原 定征 (委員長) 岡 俊子 小笠原 範之 忽那 憲治 幸田 博人 横尾 敬介

経営理念

オープンイノベーションによる企業の成長と競争力強化に対する資金供給を通じて、民間投資を促進するとともに、投資人材の育成等を行い、我が国の次世代産業を支えるリスクマネーの好循環を創出します。

活動の柱

(1) オープンイノベーションによる企業の成長と競争力強化に向けたリスクマネーの供給

①民間ファンドへのLP投資と、②JICが設立するファンドによる投資を通じ、産業競争力の強化の観点から、政策的に意義が認められる事業分野への資金供給を行い、民間投資の呼び水となることを目指す。

(2) 我が国のリスクマネーの好循環創出に向けた基盤づくり

JICの投資先ファンド、民間企業、団体、政府関係機関等と連携し、投資知識のプラットフォームとしての役割を果たすとともに、投資人材の育成を目指す。

JICの投資先ファンド一覧①



株式会社産業革新投資機構

公表日	ファンド名	JIC 投資額*	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
2020年 7月8日	JICベンチャー・ グロース・ファン ド1号 投資事業有限責任 組合	1,200億円	ベンチャー・グロース領域に十分なリスク マネーを供給し、呼び水効果、業界連携、 オープンイノベーション促進による日本の 国際競争力向上、産業及び社会の課題解決 を企図	✓	✓	✓	
2020年 9月9日	JIC PEファンド1 号 投資事業有限責任 組合	2,000億円	大規模・長期・中立的なリスクマネー供給 を通じて、Society 5.0の実現に向けた新規 事業・新産業の創造、国内産業の国際競争 力強化、業界の再編を企図	✓			✓
	JIC PE共同投資 ファンド1号投資 事業有限責任組合	2,000億円	国際競争力強化に向けた大規模な事業再編 に際して、JICとの共同投資を実施	✓			✓
2020年 12月8日	Beyond Next Ventures2号 投資事業有限責任 組合	40億円	医療・ヘルスケア分野をはじめ大学・研究 機関・企業の有する優れた技術シーズの事 業化に注力。産学連携による技術系スター トアップへのインキュベーション投資を実 施	✓	✓	✓	
2021年 2月26日	Catalys Pacific Fund, LP	30百万 USD	国内製薬会社や大学等から化合物を導入し、 グローバルでの開発を実施。創薬スタート アップとの協業によるオープンイノベー ション創出についての知見共有や人材育成 により創薬エコシステム醸成に寄与	✓	✓		

*コミットメント額

公表日	ファンド名	JIC 投資額	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
2021年 4月19日	ANRI 4号 投資事業有限責任 組合	29.5億円	ディープテック領域やインターネットとディープテックの融合領域にリスクマネーを供給。研究開発型スタートアップに対する人材面での支援を行うほか、女性キャピタリストや女性起業家の育成を通じたエコシステムのダイバーシティ推進も企図	✓	✓		
2021年 5月7日	みやこ京大イノベーション2号 投資事業有限責任 組合	41億円	アカデミア発ディープテック・スタートアップにリスクマネーを供給。Society5.0の実現に向けた高度な専門技術の開発や社会実装を支援。各地の大学との連携により、地方に眠る将来性ある技術の活用と技術系スタートアップのエコシステム醸成に貢献	✓	✓	✓	
2021年 12月3日	DRONE FUND3号 投資事業有限責任 組合	30億円	世界でも珍しいドローン・エアモビリティ特化型 VC。ハード・ソフト両面に加え、ドローン関連サービスや、ドローンに応用可能なテクノロジーの開発・提供を支援。地方発の案件発掘にも注力	✓	✓	✓	
2021年 12月13日	UC ヘルスケア・プロバイダー 共同投資事業有限 責任組合	240億円	地域の医療機関やヘルスケア事業者に対する支援を行うとともに、各関係機関の連携を図り、ヘルスケア業界における生産性の向上と、質の高いヘルスケアの効率的な提供に寄与。国内初の総合ヘルスケア・プロバイダーの創出を目指す	✓			✓

公表日	ファンド名	JIC 投資額	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
2021年 12月24日	Sozo Ventures III, L.P.	50百万 USD	北米の有カスタートアップに対する投資と、日本の事業会社に対する事業提携の機会の提供等を主軸とした投資戦略。米国内外のスタートアップ、スタートアップエコシステム、アカデミアに深いつながりを持ち、スタートアップの国際展開支援に取り組む	✓			
2022年 1月26日	ANRI-GREEN 1 号投資事業有限 責任組合	30億円	先行投資と長期の運用を伴う、Climate Tech領域のディープテック・スタートアップへ投資。同領域における民間投資資金の流入や、産業の育成、アカデミア発のスタートアップへの支援を通じた研究開発や社会実装の推進を企図	✓	✓		
2022年 1月31日	Genesisia Venture Fund 3号投資事 業有限責任組合	55億円	国内の独立系VCとして、プレシード/シード期のスタートアップに積極的に投資。東南アジアの日系企業と現地スタートアップとの提携支援等に取り組む数少ないファンドの一つ。現地のスタートアップエコシステムに参入し、業務提携や資本提携を締結させるなどの実績を有する	✓	✓		
2022年 3月7日	WiL Ventures III, L.P.	100百万 USD	東京と米国シリコンバレーに拠点を有し、国内外の有望なスタートアップに投資。国内事業会社等への啓蒙・支援活動を通じてオープンイノベーションの促進を図ると共に、海外の拠点・ネットワークを活用し、国内事業会社等と海外スタートアップとの事業提携等の創出を図る。また、国内投資先に対する海外展開支援等により、日本発ユニコーン企業の創出にも取り組む。	✓	✓		

公表日	ファンド名	JIC 投資額	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
2022年 4月5日	IAパートナーズ1号 投資事業有限責任 組合	100億円	主にエレクトロニクス、化学、ヘルスケア、物流および消費財等の中堅企業を対象としたカーブアウト・ロールアップを主軸とした投資戦略。日本が国際競争力を持ちうる事業分野における、既存企業による産業や組織の枠を超えた事業再編に取り組む。				✓
2022年 4月15日	QB第二号 投資事業有限責任 組合	25億円	九州を中心として、九州大学ほかの地方大学との関係を築き、連携を強化することで、地方に眠る技術シーズの掘り起こしに積極的に取り組み、地方大学発の技術系スタートアップに対する投資を実施。	✓	✓	✓	
2022年 5月11日	DIMENSION2号 投資事業有限責任 組合	30億円	デジタルビジネス、ヘルスケア、ディープテック等の領域のスタートアップに投資。MBOやスピアウトによるスタートアップの設立支援など、オープンイノベーションの促進、新規事業の創造にも取り組む。	✓	✓		
2022年 6月10日	Apricot Venture Fund 2号投資事業 有限責任組合	20億円	プレシード/シード期のスタートアップへの投資に注力し、新規事業にチャレンジする起業家を積極的に支援。デジタル技術を中心に、Society 5.0に向けた新規事業・新産業の創造に資する分野への投資にも取り組む。	✓	✓		

公表日	ファンド名	JIC 投資額	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
2022年 7月5日	グロービス7号 ファンド投資事業 有限責任組合 グロービス7号S ファンド投資事業 有限責任組合	80億円	企業価値として数千億から1兆円規模に成長する、日本を代表するスタートアップの輩出を目標とした投資戦略を掲げ、その中で、日本発のグローバルユニコーン創出を目指す。また、グローバルユニコーンを生み出す国内VCのロールモデルを目指す。	✓	✓		
2022年 7月6日	Catalys Pacific Fund II, LP	30百万 USD	国内製薬会社等から有望な化合物を導出し、グローバルで開発を推進。創薬スタートアップとの協業によるオープンイノベーション創出に関する知見共有・人材育成を通じ、創薬スタートアップ・エコシステム醸成に寄与	✓	✓		

- 当資料は、2021年度の事業活動と今後の方針について説明するものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は、特定の金融商品等の取得・勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料に掲載されている情報は、特段の断りがない限り、当資料の作成日時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料の作成には万全を期していますが、利用者がこの情報を用いて行う一切の行為（この情報を編集・加工した情報を利用することを含みます。）について、弊社は何ら責任を負うものではありません。
- 当資料に掲載されている内容の著作権は、当資料に記載された関係者ないし当社に帰属しており、目的を問わず、無断で複製、引用、転載等を行うことはできません。複製、引用、転載等をご検討の際は、当社広報までご相談ください。



JAPAN INVESTMENT CORPORATION